

薬学部薬科学科

滝口礼

私は、水田三喜男記念奨学生として、ハンガリーのブダペスト商科大学（BUEB）の国際グローバル研修（ハンガリー研修）に参加しました。約二週間の滞在を通じて、BUEB 学生との交流やハンガリーの文化に触れ、日本では得られない貴重な経験をする事ができました。

この研修に参加した理由は、高校の修学旅行で予定されていたオーストラリア訪問がコロナの影響で中止となり、学生のうちに一度は海外留学を経験したいという思いがあったからです。しかし、通常の留学では休学が必要になる場合が多い中、このハンガリー研修は休学せずに参加できると知り、挑戦したいと強く思いました。ハンガリーに到着してからは驚きの連続でした。街には教科書で見るとような歴史的な建物が立ち並び、古代ヨーロッパのような景観が広がっていました。また、ハンガリー料理はとても美味しかったものの、一皿の量がとても多く、日本食が恋しくなる場面もありました。



BUEB での授業は、日本のように教師が一方向的に教えるのではなく、生徒に問いを投げかけ、その回答をもとに進められるスタイルで、新鮮な学びの機会となりました。また、身体に障害を持つ児童が通う学校を訪問する機会もありました。このような施設が日本にはないため、ハンガリーでその存在を知り驚きました。そこでは先天的な身体障害を持つ児童が主に通い、ハンガリーの基本的なカリキュラムに沿った授業が行われています。施設には、障がいのある生徒が快適に過ごせるようエレベーターのボタンを工夫するなどの配慮がなされ、ロボット工学を学ぶ環境やバリアフリー設計の学生寮も整備されていました。さらに、個々に適した運動療法が実施され、卒業生の中にはパラリンピックに出場する選手もいるとのことでした。しかし、その一方で、市街地にはバリアフリーの整備が行き届いておらず、歴史的な街並みを大切にする文化がその要因の一つかもしれないと感じました。



この研修を通じて、自分の英語力がまだ十分でないことを痛感しました。BUEB での授業では、事前に配布された資料で程度理解できたものの、先生の問いにうまく答えることができませんでした。また、現地の学生との交流では、相手の話す内容は何となく理解できても、自分の意見を伝えることが難しく、もどかしさを感じました。さらに、発表の前日に高熱を出してしまい、発表の機会を逃したことは非常に悔しかったです。

今回の研修を通じて、自分の現状の実力を把握することができました。そして、今後も積極的に海外へ行き、自分の知らない世界に飛び込みたいという思いが一層強まりました。今後は成長の機会を逃さず、主体的に行動し、リーダーシップを発揮できる人物を目指して努力していきたいと思います。

